

望まれてはいるが、歓迎されてはいない

最近のコロラド州での悲惨な殺人事件で、「なぜ子どもが子どもを殺しているのだろうか？何が間違っていたのだろうか？」と、多くの人々が疑問に思っています。最近実際起こった事件に関わった者の性格や、家族や、その他の詳細を調べるまでもなく、検討してみなければならぬ重大な問題がすでに存在しているのがわかります。

ますます多くの心理学的な証拠が、若者によって行なわれる暴力と「中絶の生き残り」であることとの関係を指摘しています。「中絶と児童虐待に関する調査および回復のための国際研究機関」は、もう何年も、中絶を容認する文化の中で子どもが成長することの破壊的な影響のことを指摘しています。この中絶の文化では、「どの子どもも皆、望まれた子どもでなければならぬ。」と言われています。

若者はこの言葉が、「母のお腹にいたときは、私は人ではなかった。殺されていたかもしれない。たとえ殺されたにしても、誰も文句を言わなかっただろう。誰か他の人が私を望んでくれたので、私は今生きています。両親が私を産むことに決めたという事実がなかったら、

私は死んでいたかもしれない。」「ということを意味すると解釈しています。

一見すると、「望まれている」とは心理的に良い意味であるように思われるかもしれませんが、しかも一度考えてみましょう。「望まれた」と人は、他の人の願い（あるいは予定、期待、計画）を叶える立場にあるのです。これとは別に、「喜んで迎えらるる」というのは、付帯条件無しに本来の価値だけであるがままに受け入れられるということです。「歓迎される」とは、「望まれる」とことよりも、ずっと健全なことなのです。

「中絶の生き残り」にはさまざまなたいプがあります。中絶されたかもしれない可能性が統計上高い

国に住んでいれば、それだけで生き残りになるのです。もうひとつ別のタイプは、兄弟の中に中絶されたものがある人のことです。さらに別のタイプは、怒りにまかせて、「お前など中絶しておけばよかった。」というようなことを、両親から言われる人のことです。

中絶の生き残りである子どもは、生き残ったという罪悪感、存在に対する不安、愛されているかという不安など、たくさんのはつきりとした症状を経験します。心の働きのよって次のように考えるようになります。「私は望まれたから生きています。もし望まれることをやめれば今でも殺される可能性がある。受け入れられ続けるために、できることは何でもしなければなら

ない。」

しばらくすると、望まれるための必死の努力に嫌気がしてきて、暴力という無意味な行為で反抗する可能性があります。暴力は、「望まれている」という細かい糸でかろうじて生きていられるということに對する怒りの表現になるのです。

人に死ぬことを考えさせてしまう無意味さの感覚のような他の要因も、生き残りの症状の場合があります。表面的で根拠のない心理療法に頼らないで、中絶の文化によって表れてきた心の働きを私たちが真剣に考えなければなりません。社会における暴力を終わらせようと本当に真剣に考えている人で、あらゆる手段を尽くして努力することのできない人はいません。子どもは大人の努力をものに受けるのです。

フランク・ペイヴオン



が考えられます。第一に、生育力のない胎児は、あまりにも母体と密接につながっているため、独立した別の人格とは言えないということです。第二に、生育力の十分発達した胎児は、新生児とほとんど変わらないため、人間ではないとして切り捨てるわけにいかない



生育力

胎児は人間か否かを生育力によつて判別する考え方があります。生育力とは、子宮の外で胎児が生存する能力のことです。なぜ生育

可能な胎児を完全な人間とみなし、生育不可能な胎児を人間ではないとみなさなければならぬのでしょうか？それには、二つの理由

(2ページへ)

のです。

このうち、第一の理由は間違っています。胎児は母体の一部ではありません。例えば、母親と胎児の血液は通常の場合混じり合うことはありません。胎児の血液型が母親のそれと異なることもあるでしょうし、胎児が男の子である場合は、当然のことながら女性である母親の身体の一部ではあり得ません。母体への胎児の密接なつながりは、確かに母親への依存性を示しています。しかし、それと胎児が人間か否かはまったく別の問題です。胎児は小さく、か弱い生き物であるために、母体に依存し、母親の子宮に守ってもらう必要があります。これは、胎児の成長状態を示してはいるでしょうが、胎児の人間としての状態には全く関係ありません。母体への依存と、その結果起こる母との密接な関係は、胎児の成長状態と同時に、人間としてのひとつの生命の連続性を示しているのです。

生育力が未発達とされる胎児(妊娠10週目)でも、普通の赤ん坊と変わらないように見えるものです。妊娠7週目の終わり頃(生育力の備わるはるか以前の段階)までには、胎児は小さいながらも新生児と変わらない状態に

発達しているのです。これらのことから考えて、生育力の有無が胎児の人間か否かを判断する物差しにはならないことがわかります。それどころか、生育力を基準にする考え方が事を複雑にしているのです。妊娠初期の胎児が新生児とはまるで違って見えたり、私たちの考えるいわゆる赤ん坊とは似ても似つかぬようであったとしても、それは大した意味を持ちません。似ていようがまいが、胎児は胎児なのですから。妊娠中期・後期の成長した胎児や新生児などとは全く異なって見えたとしても、成長を始めたばかりの胎児には無理もないことなのです。「赤ん坊らしく見える」ということは、赤ん坊のような身体的特徴を備えているということですが、そのようになるには時間がかかるのです。ですから、これから成長していくこうとする妊娠初期の胎児が、赤ん坊のような身体的特徴を備えるに至っていないのは当然というわけです。

胎児が人間か否かについて、生育力を基準にすることがいかに見当はずれであるかは、次のような点を考えればよりはっきりします。まず、生育力は基準として明確なものでなく、さらに道徳上重要なものでもありません。生育力が意味を持つのは、子宮の外で胎児が生存できる確率を示すという点においてのみです。妊娠初期に

は胎児の生育力はたったの25%ですが、その後50%、75%、さらに90%と上がっていきます。が、これらの数字がどんなに正確に算出されたものであったとしても、生育力の判断基準にはなりませんし、これによって胎児の人間としての存在がどこから始まるのかを規定することもできません。

生育力は医学の進歩により常に変化しているのです、それを基準にするわけにはいきません。ネイサンソン博士は一九七九年に、生育力があるのは妊娠20週目から28週目頃と書いていますが、それはどんどん早くなるでしょう。つまり、生育力というのは、医療技術の進歩によるところが大きく、胎児の成長状態にまっただく関係がないのです。生育力は、生命維持の医療技術がどこまで進んでいるかという目安にはなっても、胎児が人間か否かをはかるものではないということなのです。ある医療のもとの環境下では生育できないということも起こりうるのです。このようなことから、生育力を胎児が人間か否かを決定する基準にできないことがわかります。

生育力を胎児が人間か否かの基準にしようとする人々の考え方に、ブルーメンフェルド氏がこう表現しています。「なぜ生育

力の有無を分割点の基準にするのか？胎児の肺は、妊娠24週目までは通常の空気呼吸ができません。自然がそのように決めるまでには発達していません。誰あろう自然がそのように決め、十ヶ月間の妊娠期間中にゆっくりと発達していくことを選んだ。まず脳、神経、知覚、骨格、消化器官、そして循環器官を優先し、その後肺が発達することに決まっています。自然が肺の前に腎臓を造ることを決めたからといって、どうして胎児を責めることができるだろう？」

生育力は環境に影響を受けません。生育可能以前の胎児は特定環境、つまり母親の子宮の中でしか生きることができませんが、生育可能な胎児は子宮の中でも外でも生きることができず。しかしこのことは、すべての生物には適切な環境が必要であ

「障害があつても子どもを」
DPI世界会議が10月の北海道・札幌で開かれた。いくつかある分科会の中の生命倫理分科会で東京都国立市在住の安積遊歩さん(46歳)が「障害あつても子どもを」と訴えられたとインターネットに流れていた。
彼女は生後まもなく「骨形成不全症」と診断され、車椅子の生活を送つておられる。6年前生まれのお嬢ちゃんも彼女と同じ病気だと出生前診断で分かっただけで、

るといふ真実を示しているに過ぎません。例えば、魚は水中でしか生きることができません。反対に猫は水中では生きられず、空気中でしか生きられませんが、それぞれが、ちがう環境下では生きられないのです。もしも入ることのできる大きさの子宮があればの話ですが、大人が、子宮の中で生きることができません。そして、宇宙の多くの部分は、暑すぎたり、寒すぎたり、酸素が欠乏していたりして、人間にとつて生息不可能です。また、成長段階にある人間にとつては、生育力がかかり制限されるものです。しかし、それは環境と身体の発達との関係であつて、人間か否かに関わるものではないはず

(interohoch4)

「どんな子供でも、産んで育てられる」という信念のもと出産される。

障害を持つていない人は、障害を持つておられる方々がさぞ苦しい毎日なのだろうと、勝手に決め込んで、それならいつそのこと生まれてこない方が幸せなのではないかと思つてしまつたりしている。でも彼女ははっきりと次のような言葉を私たちに伝えてくれた。
(3ページへ)

十代の性

(31)

未だに中絶はある一定の状況において認められるべきだと思っけています。例えば、肉体的あるいは精神的にハンディキャップをおった人の面倒をみるのは家族の時間、エネルギーそしてお金を多く必要とします。家族のことを考えたら、ハンディキャップをもった赤ん坊は生まれて来ない方がいいのではないのでしょうか？



平和を破壊するいちばん恐ろしいものは墮胎です。なぜなら、子どもを殺すのはその子の母親自身だからです。…若い女性達は両親を恐れ、世間の人々を恐れるあまりに、墮胎することがよくあります。でも彼女たちを助けなければなりません。

(メジャー・テレサ)

そのハンディキャップをもった赤ん坊はすでに存在しているのです。今一体その赤ん坊に何をしようというのでしょうか？赤ん坊を殺すためにどんな理由をあげられるのでしょうか？遅かれ早かれ、赤ん坊を殺す中絶を正当化するように、すでに生きている人間を殺すのと同じ理由を適用させる人が出てくることになるのでしょうか？

中絶は安楽死の受入れを促す

もし、完成の度合いで中絶が正当化でき、ハンディキャップをおっているからといっておなかの中の赤ん坊を殺してしまえるなら、事故などで障害をもつ子どもや大人はどうなるのでしょうか？
もし、知性が中絶を正当化でき、知恵遅れだからという理由でおなかの中の赤ん坊を殺してしまえるなら、不妊となった年寄りはどうなるのでしょうか？

もし、お金が中絶を正当化でき、両親がもう一人子どもを養う余裕がないからという理由でおなかの中の赤ん坊を殺してしまえるなら、あなたたち夫婦はあなたたちの両親をいざれサポートしていくことができますか？

もし、すでに子どもがたくさんいることが中絶を正当化でき、すでに兄弟姉妹がたくさんいるからという理由でおなかの中の赤ん坊

を殺してしまえるなら、社会にお年寄りが大勢になったとき、どうするつもりでしょうか？シンガポールと日本は高齢化社会です。次の半世紀のうちに労働者2、3人で1人の年若い労働者を支える時が来ることを想像するのは不可能ではありません。もし今の世代(あなたも含められるのです!)が将来の納税者を殺してしまえるなら、どうして今生きている子ども達があなた方の世代に同情などしましうか？

もし、欲しいかどうかで中絶を正当化でき、欲しくないからという理由でおなかの中の赤ん坊が殺してしまえるなら、家族から望まれていない障害をもつ子どもや大人あるいは老人たちは一体どうなるのでしょうか？

真の人間になるには

障害者や高齢者の居場所は私たちの社会にあるのでしょうか？シンガポール社会も、現在は若くて活気に満ちています。テレビや雑誌の広告を見れば、若くてしゃれた男女たちが、広告商品を買うようにと勧めています。健康食品Aを食べればあなたの生活は満ちたものになるでしょう。化粧品Bを使えばあなたはゴージャスに変身できます

(2ページから)

「私も障害があるがゆえに親に愛され、得た楽しさがあったから迷わなかった。障害を持つ子どもが生まれると不幸と思うのは助けがないから。助け合う現実を作ればいい。存在によって周りの環境、人の意識は変えられる」

本当にそうだと思う。一人の人が存在する重み。例え、その人が何も出来ない寝ているだけの人があったとしても、そこに存在して

す。つまり、私たちはみな若く美しく、そしてエネルギーシユでいたいのです。

しかし、人生とはそんなもの

ではありません。いつか、私たちはみな年をとる、機敏さを失うのです。障害者や高齢者は、私たちが忘れがちなことを思い起こさせてくれます。つまり、弱いということも人間の条件の一つだということです。障害者や高齢者がいなければ、私たちは健康と力のみが人生の最も重要なものだと思うでしょう。彼らの存在があるからこそ、愛すること、忍耐強くなること、そして理解することを忘れないでいられるのです。彼らの面倒をみることで、私たちはあらゆる奉仕をしていることになるのです。あとになって初めて、彼らが真の人間とは何かを教えてくれたこと

によって私たちの人生を豊かな

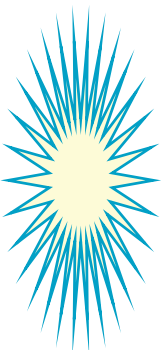
いる、ただそのことによって、私たちは自分だけでは出来ない広い体験が出来、様々な気持ちをとみに味わうことができる。

「不良な子孫が生まれる場合は中絶してよい優生保護法は一九九六年、母体保護法に名前が変わった。今、産婦人科医を中心に、障害を持った場合は中絶できる条項を加えようとする大きな勢力がある」と安積遊歩さんは警鐘を鳴らされた。

(大岡 滋子)

ものにしてくれたと気づくのです。思いやり、親切そして理解を通して、私たちは人間であることの意味を知るので。

障害を持った子どもの親になることは簡単なことではありません。そのような親たちは英雄的な愛情をもって接するように言われます。私たちは社会全体として安易な方法を勧めるべきではありません。中絶を勧めたり、とりあえず出産してその後放っておく、といったことを勧めてはいけません。個人としても社会としても、私たちは彼らを助けていかなければならないのです。



日本プロ・ライフ・ムーブメント事務所

〒780-0062

高知市新本町一丁目7-31

電話/Fax: 088-873-3619

e-mail: prolife@i-kochi.or.jp

http://www.japan-lifeissues.net

For English Speaking People /evening: Tel/Fax: 088-843-0406 Email: nvt56n@ps.inforyoma.or.jp

事務所時間:

| | | | | |
|---|---|-------|---|-------|
| 月 | 金 | 10:00 | — | 17:00 |
| 土 | 曜 | 日 | | 休 |
| 日 | 曜 | 日 | | 休 |

会員募集

寄付: 十万円 五万円 三万円

一万円 五千元 一千元

無料: 毎月プロ・ライフ・ニュースレター

あなたの寄付はまだ生まれていない赤ちゃんを守る運動のため使用させて頂いております。私たちと一緒に小さいのちを大切に育みましょう。

御送金

銀行: 四国銀行朝倉支店

口座番号: 0573553

日本プロ・ライフ・ムーブメント

郵便局: 「郵便振替」

口座番号: 01660-5-39607

日本プロ・ライフ・ムーブメント

事務所便り

新しい年をどのようにお迎えになりましたでしょうか。昨年は皆様にとってどのような年でしたか。事務所にとって昨年はとても苦しい年でした。

長い間、本当に長い間、この事務所が出来てからずっとともに頑張ってきた小松俊美様(一九九六年十月号のPRO LIFE JOURNALで紹介致しました)が約三ヶ月の病院での闘病生活のち、十月七日午後九時十分帰らぬ人となりました。遺影はいつものあの笑顔で、お通夜では、亡くなる十日前まで日記をつけておられ、その最後が「お礼。皆に世話になった。」「だつたと御長男がお話になられ、皆の目から思わず涙が出て来ました。」

島本要大司教様も亡くなりました。プロ・ライフに記事を書いて下さいませんかとお願した時はいつも快く引き受けて下さり、励ましのお便りも同封して下さいました。原稿で分らない言葉があった時、お電話すると、「大切なことだから、これから頑張つて下さいね」と電話の向こうで励まして下さった声が今も耳に残っています。

お二人の御冥福を事務所のスタッフ一同心からお祈り致しております。

また、この運動の代表者でオペレート会社祭、ノボトニーが六月にガンが見つかり、手術を受けました。大学の後期の授業が始まりましたが、まだ本調子ではなく、引続き皆様のお祈りを必要としています。よろしくお願い致します。

読者の声は二〇〇一年中に頂いた皆様の声を一部掲載させて頂きました。今は二〇〇二年十月で、二〇〇二年分がまだ一年分そろっておりませんので、。事務所にお送り頂いた声は、スタッフだけにではなく、全国で活動して下さっている皆様お一人お一人への励ましと感謝の声でもあると思いますのでお届け致します。

(日本プロ・ライフ・ムーブメント)

読者の声

* 希望に満ちた一年になりますように。

尊いお仕事の上に神様の祝福とお恵みをお祈り申し上げます。(別府市 Yさん)
* 遠くよりお祈り致して居ります。がんばって下さい。(取手市 Yさん)

* 次回からプロ・ライフ・ニュースを2部ずつお願いします。知らない友人にあげたりして、すぐ無くなってしまつし、自分の分もほしいのでお願い致します。そして、陰ながら応援していますので、これからはずっと続けて下さい。毎月楽しみにしています。(市川市 Sさん)

* 知らない分野でいろいろの活動をしておられることに感謝しています。お元気で活躍なさるようお祈りします。毎月興味深く読ませて頂いています。(福岡市 O修道会)

* いつもお送りいただきありがとうございます。いのちに対して「沈黙の叫び」など多くの方々に見てもらい頑張っています。どうぞお祈り下さい。(熊本県菊池郡 Aさん)

* いのちの責を呼び続けておられる活動に心より声援を送ります。(徳島市 Iさん)

* プロ・ライフ・ニュース毎月ありがとうございます。どうぞお願いします。そちらのビデオ、資料が生徒たちにとっても人気があり、使用させていたいただいています。来年度転任するようであれば、また、連絡させていただきます。(佐野市 Oさん)

* 主の平和が共にありますように。ささやかなお手伝いです。もっと実のある働

きが出来ればと思いつつ、さぐつていくところ。主のみ心が行われますように。(宮津市 Sさん)

* 会報をいつもご送付下さり有難うございます。クリスマス募金より小額ですが、ご寄付させていただきます。祈りのうちに。(本庄市 カトリック教会)

* 何時も、プロライフをお贈り下さつて有難うございます。少しばかりですが、御仕事の為にお使い下さい。くれぐれもお大事に。(千代田区 Mさん)

* 趣旨に賛同し、寄付させて頂きます。胎児の人權を守るために具体的にどのような活動をされているのでしょうか。情報を下さい。(練馬区 Mさん)

* いつもありがとうございます。本当に大変な地味ですが、今の日本に何より大切なお仕事、これからもよろしくお祈り致します。神様の祝福を心よりお祈り申し上げます。(和歌山市 Wさん)

* カトリック教会で頂いた会報を見て入会します。4人の子育てで毎日大騒動していますが、それでも一人でも赤ちゃんが救われるのを祈っています。(佐賀市 Nさん)

* ご降誕おめでとございます。平和の君のお誕生の恵みによって、世界に本当の平和が満ちあふれますように。生命を大切にされる世界、生命を愛される神の愛が大切にされる世界になりますように。一年間ありがとうございます。新年が皆様にとって祝福に溢れた年となりますように。(佐倉市 Iさん)